HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	博物館は連携する
Author(s)	持田, 誠
Description	総合博物館へ行こう. 第9回.
Citation	きぼうの虹, 331, 7-7
Issue Date	2010-11-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46746
Type	article
File Information	mochida kibou331.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

総合博物館へ行こう 第9回

博物館は連携する

総合博物館
資料部研究員　持田　誠



図1　2002（平成 14）年に国土地理院によって制定された地図記号。左が博物館、右が図書館。いずれも社会教育法の適用を受ける公立館が対象。両者には永年つかず離れずの関係が続いてきた。

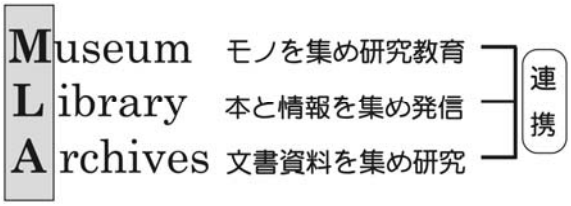


図2　Museum（博物館）、Library（図書館）、Archives（文書館）の頭文字をとってMLA。実際の距離はＭとＡ、ＬとＡの法が近いという声もある。資料を集めて保存する目的は同じだが、資料に対する考え方が三者三様。最近の図書館は本の実態より情報を重視しつつある。

10月9～10日、北大札幌キャンパスに程近い藤女子大学において、第58回日本図書館情報学会研究大会が開催された。公開シンポジウムのテーマは「図書館・博物館・文書館の連携をめぐる現状と課題」で、私も博物館の立場でパネリストとして招かれ、「ＭＬＡ連携」と呼ばれる三者連携の現状について報告した。今回と次回で、最近にわかに注目されてきた「ＭＬＡ連携」についてとりあげる。

ＭＬＡ連携とは？

Museum（博物館）、Libibrary（図書館）、Archives（文書館）の連携を、それぞれの頭文字をとって「ＭＬＡ連携」という。三者とも資料（文化資源）を収集・保存する機関として、かねてより独自のさまざま活動を展開し、個別の連携ははかられてきた。近年、より具体的に、より深化した連携が模索されるようになってきた。

なぜ今、この三者の連携なのか？それはインターネットを中心とする情報のデジタル・ネットワーク化が背景として大きい。これまでの「モノを保存する」役割から、「情報を発信する」役割へと、業務の性質が大きく発展してきたのである。

この動きにいち早く反応してきたのが、図書館の世界である。そもそも今回の学会も、かつては「日本図書館学会」だったが、現在は「図書館情報学会」である。デジタル・アーカイブの発達により、北大でもその恩恵にあやかっている研究者は多いはずである。

ＭＬＡそれぞれの役割

もともと図書館は、「図書」という紙媒体を収集し、永続的にこれを保管。利用者に分け隔て無く利用してもらう事を使命としてきた機関である。今日、紙媒体の「モノ」に記録された「情報」をデジタル化し、幅広く提供する手段としてネット・メディアに果敢に切り込んでいる。「メタデータ」と呼ばれる、これらの膨大な情報発信の中核的な技術は、永年の図書館世界における技術発展に負うところが非常に大きい。

一方、博物館の世界でこの動きに敏感だったのは美術館であった。かねてより首都圏の美術館を中心に「アートライブラリ（美術館図書室）」を中心とするネットワークがある。美術館横断型の共同目録の作成・発信から、近年は収蔵資料そのものの高精細画像データベースの構築などへと事業が発展してきている。

そもそも博物館が図書館と対称的なのは、図書館が本に刻まれていた「情報」の収集・発信に相当の比重を置いているのに対し、博物館はあくまでも「モノ」を重視する点である。

今回のパネリストで図書館の立場から発言なさっていた近畿大学の田窪直規先生は、この図書館と博物館の関係を新聞を例として挙げていた。すなわち「新聞紙」を集めるのが博物館であるのに対し、今日の図書館は「新聞記事」を扱う。「新聞記事」という情報を入れておく容器が「新聞紙」であり、情報をデジタル化する図書館に対して、容器を重視するのが博物館なのである。

文書館は、残念ながら日本ではまだ社会に浸透しきっていない機関であるが、国立公文書館を筆頭に、行政文書から私文書に至るまで、さまざまな「文書・記録」を保管し、調査研究を行なう機関である。今回、文書館のパネリストとしては、高山正也国立公文書館長が登壇。永年のご経験と蓄積から、文書館の抱える課題や将来像について御報告があった。

近年、話題となっている、核兵器をめぐる「密約外交」の報道で、「文書館」や「アーカイブ」の文字を目にする機会も多かったはずである。その果たす役割はとても大きい。

注目すべきは、文書館は図書館と博物館との中間的な役割を果たしているということである。文書も書かれている中身が重要だが、文書そのものもモノとしての研究対象として重要である。

ＭＬＡ連携の実際

それでは具体的にＭＬＡは、連携して何をしているのか？何を目指すのか？次回は具体的な連携事例やその課題について紹介する。



写真1　東京都千代田区北の丸公園に建つ国立公文書館。つくばに分館がある。文書館は法体系も活動内容も博物館や図書館とは一線を引いた機関だったが、近年、両者との間での連携が模索されている